

平成 30 年度

事業報告書
及び附属明細書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益財団法人 八王子市学園都市文化ふれあい財団

I 平成 30 年度財団経営の総括

平成 30 年度は、第 2 次中期経営計画の 3 年目として同計画に掲げる施策・目標の達成と本年度経営方針に基づき、当初の事業計画に掲げた事業を着実に実施しました。

事業面では、指定管理者として 3 文化施設、夢美術館、18 市民センター、14 地区会館及び総合公園を適切に管理運営し、約 245 万人の方々の文化・芸術・コミュニティ・スポーツ活動の利用に供しました。

芸術文化事業において重点事業として取り組んだ「八王子音楽祭」と「伝承のたまてばこ」では、クラシックの魅力や多摩の伝統文化を多くの方々に楽しんでいただきました。このほか、「東京交響楽団 第 3 回八王子定期演奏会」や「南大沢コミュニティオペラ」、「野村万作・萬斎 狂言の会」など多種多様な事業を実施しました。

夢美術館では、特別展を 6 回開催し、開館以来最高の来館者数となりました。

また、コミュニティづくりでは地域住民協議会と連携し、各市民センターを中心に地域交流の場を提供しました。

上柚木公園では、地域のボランティア団体などと連携し、安全できれいな公園づくりを行いました。

学園都市づくりでは、学園都市大学（いちょう塾）の運営、大学コンソーシアム八王子の支援を行いました。

経営面では、利用料金収入の増や効率的な業務執行などにより、事業活動収支（経常収支）は黒字となり、あわせて将来の財政安定のために特定資産の積立を行いました。

1. 中期経営計画（平成 30 年度）

(1) 中期経営計画の重点施策と結果

- ① 魅力ある芸術文化事業を全市的に展開し、「芸術文化薫る魅力都市八王子」を市内外に発信する
⇒ 八王子音楽祭 2018 では、子どもや障がい者にも楽しんでいただけるように、クラシックを楽しむアートと楽器のコラボレーションなど、多様な事業を実施しました。ホールや多くのカフェ等で、全 47 事業、約 7,100 人の方に来場していただきました。

伝承のたまてばこでは、立川・町田など多摩の伝統文化の紹介や八王子に因んだ古道をテーマにした創造舞台の公演を行い、約 35,000 人が来場し、文化の薫る街づくりと賑わいの創出に寄与しました。

このほか、芸術文化会館などでは「野村万作・萬斎 狂言の会」や「桃月庵白酒・春風亭一之輔 二人会」、「なごみーず」など多様なジャンルの鑑賞機会を提供しました。

夢美術館では「浮世絵ねこの世界展」など 6 つの特別展を開催し、来館者は年間で過去最高の 47,435 人となりました。特に夏休み期間に開催した「エドワード・ゴッリーの優雅な秘密」展は来館者が 13,000 人を超える記録となりました。

- ② 子ども・市民の文化活動、地域コミュニティ活動を支援し、豊かな市民生活実現と地域コミュニティ活性化に貢献する

⇒ 子ども・市民の文化活動では東京交響楽団の奏者が直接指導をするユースオーケストラ事業や学校に音楽を届けるアウトリーチ事業のほか「オーケストラ・ワンダーランドへようこそ!」、「八王子ふれあいこどもまつり」などを通じて、多くの児童が音楽や演劇に触れる機会を提供し、子どもたちの健全な育成に寄与しました。

また、「学生演劇祭 2018」では、プロの劇団による学生向けワークショップや公開稽古などを実施して学生の文化芸術活動の支援を行ったほか、「南大沢コミュニティオペラ 2019」では、2 日間で 880 人の方にご覧いただきました。

地域コミュニティ活動では、地域の住民協議会が実施する市民センターまつりなどを支援し、地域コミュニティの活性化に寄与しました。

- ③ 指定管理施設において、万全な維持管理と常に進化する運営でお客様満足の最大化を図る
⇒お客様の声対応システムの運用等によりお客様のニーズを的確にとらえ改善に結びつけ、常に利用者目線に立った施設運営を行ないました。
- ④ 経営基盤の強化を図る
⇒内部登用による正規職員化や計画的な研修による人材育成に取り組みました。また、効率的な業務執行により固定経費の削減を図るとともに、利用料金収入や自主事業収入などの確保により経営基盤の安定化を図りました。

(2) 課題と展望

- ① 自主事業収入等の増収
幅広く市民のニーズを把握・分析し、新しいサービスや運営・事業につなげる必要があります。指定管理施設では、基本的財源である利用料金収入の上積みと自主事業収入の利益率を高め増収を図ります。
- ② 自主財源の確保
財団の持続的・安定的経営のため、自主財源を確保することが重要です。積極的な営業活動により、財団サポート会員・特別会員（事業協賛）や企業等の助成金の獲得の取組みを進めます。
- ③ 組織力の強化
活力ある組織を構築するために職員の構成を見直すとともに更なる人材育成に取り組む必要があります。そこで内部登用制度による正規職員化や外部登用による人材の確保を進めます。
また、公益財団の職員に必要なスキルをOJT・OFF-JTや専門研修等により修得します。
- ④ 固定経費の抑制
事業活動収支は平成26年度から黒字に転換し安定していますが、人件費などの固定経費が増加傾向にあります。そこで、給与体系の見直しなど抜本的な対策を進め、固定経費の抑制を図ります。
- ⑤ 情報発信の強化
財団主催事業や施設の利用案内など積極的に発信する必要があります。財団の情報紙やホームページを見直し拡充するとともに、マスメディアやSNSなど様々な手段で情報発信の強化を図ります。
- ⑥ 次期指定管理申請の準備
財団の管理する文化施設の指定管理者として次期指定管理申請に向けてその方向性等を決定する重要な年となります。そこで、指定管理申請時に提案した事業計画に掲げる事業を着実に実施するとともに、指定管理申請における考え方、方向性等の整理を進めます。

Ⅱ 事業概要

1. 芸術文化の振興

(1) 音楽・演劇等

① 音楽等芸術文化の鑑賞機会の提供

重点事業として取り組んだ「八王子音楽祭」や「伝承のたまてばこ」のほか、クラシックコンサート、八王子学生演劇祭に伴う演劇鑑賞、サーカス、狂言の会、ポピュラーコンサート等を実施しました。

ア. 重点事業

第10回目となる八王子音楽祭では、クラシック音楽の魅力をテーマに、ホールや街中のカフェ等で広く鑑賞機会を提供しました。クラシックの作曲家10人の作風に合わせた会場とアーティストによる「街なかく憩いのクラシック」をシリーズで10公演実施しました。

また、「伝承のたまてばこ～多摩伝統文化フェスティバル2018～」では、古道をテーマに、ダンス・音楽・語り・映像を組み合わせた舞台を展開しました。



リトル・ドラマー・ボーイ

イ. 芸術文化会館（いちようホール）

「錦織健テノール・リサイタル」や「木嶋真優ヴァイオリンリサイタル」、演劇集団キャラメルボックスの「リトル・ドラマー・ボーイ」や「野村万作・萬斎 狂言の会」、「春の邦楽演奏会」など多様なジャンルの公演を実施しました。



野村万作・萬斎 狂言の会

ウ. 南大沢文化会館

八王子音楽祭の事業の一つとして、0歳から鑑賞できる「赤ちゃんチャカチャカコンサート」、ホールとカフェで楽しめる「J.S. バッハ コーヒーカンタータの世界」を実施しました。

エ. 学園都市センター

東京交響楽団メンバーのチェリストによるアフタヌーンコンサートでは、「体験学習フォーラム八王子 2018」の関連企画としてロビーにチェロの演奏体験コーナーを設けました。



サントペテルブルグ
国立舞台サーカス

オ. オリンパスホール八王子

「東京交響楽団 第3回八王子定期演奏会」や「ドラゴンクエストコンサート交響組曲ドラゴンクエストX目覚めし五つの種族」のほか、夏休みに親子で楽しめる「サントペテルブルグ国立舞台サーカス」を実施しました。

② 市民参加型普及

合唱やオペラ、演劇やダンス等、多様なジャンルにおいて、子どもから学生・中高年層まで広く市民が参加する体系的なワークショップと発表公演などを実施しました。

ア. 芸術文化会館（いちようホール）

学生演劇フェスティバルの関連ワークショップと発表公演、八王子ユースオーケストラの練習（通年）と演奏会を実施しました。

また、新たにユースオーケストラの初心者クラスを開催し、気軽に楽しく楽器の演奏を体験する機会を提供しました。

イ. 南大沢文化会館

「南大沢コミュニティオペラ 2019『こうもり』」では、市民が合唱で参加し、地元の大学が衣装制作などを担当しました。

また、小中学生を対象にした「MOBダンスワークショップ」を実施しました。



南大沢コミュニティオペラ 2019
「こうもり」

ウ. オリナスホール八王子

ファミリー向けコンサート「オーケストラ・ワンダーランドへようこそ！」では、指揮者体験・楽器体験教室・バックステージツアーのほか、「由井一小オケワンコーラス隊」が東京交響楽団と共演しました。

また東京交響楽団と市民合唱「八王子クリンゲンコア」によるヴェルディ「レクイエム」公演を実施しました。

③ 鑑賞型普及

気軽に楽しめる名曲コンサートや平日開催のコンサート、学校の生徒等を対象にした演劇や音楽の事業をホールのほか、学校や市民センター等身近な場所でも展開しました。

ア. 芸術文化会館（いちょうホール）

フレッシュ名曲コンサート「東京交響楽団 新世界より」や八王子車人形集大成シリーズ、金管楽器によるアフタヌーンコンサートなどを実施しました。

イ. 南大沢文化会館

平日の午前中に市民が気軽に楽しめる「モーニングコンサート」を継続実施したほか、八王子音楽祭の事業の一つとして市民が思い思いにピアノに色彩を施す「アート楽器制作ワークショップ」を実施しました。

ウ. 学園都市センター

子どもや聴覚障害の方にも楽しんでいただけるように体感音響システムを使用した「誰でも体感コンサート」を実施しました。

エ. オリナスホール八王子

劇団四季と提携し、市内小学校の子どもたちを招待して質の高い演劇を鑑賞する「こころの劇場」を開催しました。

オ. 学校アウトリーチ

東京交響楽団メンバーが市内小中学校で楽器のわかりやすい紹介や生演奏を通じて、子どもたちが本物の音楽に触れる機会を提供しました。



八王子音楽祭
アート楽器制作ワークショップ

カ. その他

南大沢コミュニティオペラをホールから離れた地域の市民にも楽しんでいただけるよう出張ミニ公演など、オペラの普及のための事業を実施しました。

④ 公演やアーティストへの支援

市民が主催する芸術文化事業に対し、当日の運営や舞台作りのアドバイスなどの人的支援や会場利用料の一部助成などを行いました。

(2) 美術（夢美術館）

美術鑑賞、市民参加型普及、鑑賞型普及の各事業や施設の維持管理、収蔵品の保管を適切に行いました。

① 美術鑑賞

ア. 国内外で高い評価を受けている優れた美術品等の紹介として「-国芳、広重、国貞、豊国、英泉らが描く-浮世絵ねこの世界展」、「広重 二つの東海道五拾三次 保永堂版と丸清版」、「粋な古伊万里 江戸好みのうつわデザイン」を開催しました。

イ. 学生や子どもたちも楽しめる展覧会として「エドワード・ゴリーの優雅な秘密」や「王立宇宙軍 オネアミスの翼展 S F アニメができるまで」、「チェコの現代糸あやつり人形とアート・トイ 春日明夫コレクション」を開催しました。

ウ. 小島善太郎、鈴木信太郎、城所洋、清原啓子など市にゆかりの作家で国内トップレベルの作品を紹介しました。

② 市民参加型普及

ア. 大学連携事業として東京造形大学の学生が出品する「東京造形大学フラッグギャラリープロジェクト」は 15 回目を迎え、「HAPPY（ハッピー）」をテーマとした作品を商店街（ユーロード）に掲出しました。

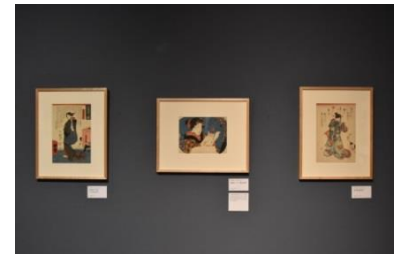
また、帝京大学と連携した「小島善太郎資料研究」では学生が参加し収蔵品の調査を行いました。

イ. 東京富士美術館、村内美術館と「第 13 回 はちおうじ美術館めぐり SUN☆KAN ラリー」を開催したほか、八王子美術連盟と「八王子画廊散歩」を共催しました。

③ 鑑賞型普及

展覧会や展示作品の理解を深めるため、「浮世絵ねこの世界展」ほか全ての特別展で展示室内での解説会（ギャラリートーク）を計 13 回開催し、「王立宇宙軍 オネアミスの翼展」では対談形式の講演会を 1 回開催しました。

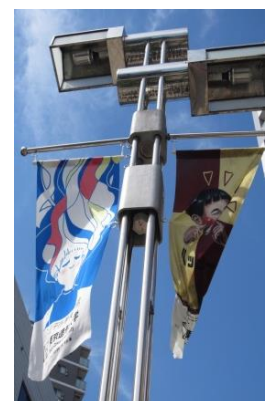
また、特別展図録と収蔵品を紹介する図録等を販売しました。



浮世絵ねこの世界展



エドワード・ゴリーの
優雅な秘密



東京造形大学フラッグギャラリー
プロジェクト



ギャラリートーク

(3) 文化施設の管理・運営

芸術文化会館（いちょうホール）、南大沢文化会館の指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請における提案書に基づき、利用案内、施設貸出、利用料徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに施設利用の促進に努めました。

ア. 芸術文化会館（いちょうホール）

入場者数 236,841人 施設利用率 81.0%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.5%（大いに満足と満足の合計）

イ. 南大沢文化会館

入場者数 131,376人 施設利用率 89.4%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 99.2%（大いに満足と満足の合計）

(4) 美術館の管理・運営

夢美術館の指定管理者として、施設、設備、備品、収蔵品の適正な管理及び受付業務（観覧料の徴収など）を行いました。

開館日数257日 施設利用・事業参加者数50,500人（うち展覧入場者数47,435人）

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 97.5%（大いに満足と満足の合計）

2. コミュニティづくりに関する事業

(1) コミュニティの育成

ふれあいのあるまちづくりの推進、地域住民の交流促進及び地域コミュニティの高揚・啓発を図るための事業を実施しました。

① コミュニティづくりの活性化

地域住民の交流の場の提供及び地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会と協働し、誰でも気軽に参加できる「簡単おもてなし!春のおすしと和菓子作り」やドイツ生まれの運動と脳トレを組み合わせたエクササイズである「ライフキネティック」を市民センターで実施しました。

また、八王子市生活安全部防災課及び市民活動推進部男女共同参画課の協力により、住民協議会の方を対象に実際に避難所運営を経験しました。

女性防災士による「女性の視点から見た災害発生時の問題や課題について」の講演や災害時用マンホールトイレの実技を行うなど、避難所開設時に向けた「防災講座」を実施しました。



料理教室



防災講座

② 住民協議会連携事業

住民協議会連絡協議会（17 地域住民協議会で組織）の事務局を担当し、総会・定例会及びコミュニティ懇談会のほか、災害をテーマとした講演会を開催しました。

また、地域活動の次世代のリーダーを養成するための「コミュニティリーダー養成講座」を実施しました。

③ 地区図書室の運営

読書活動の活性化と地域住民の交流を図るため、住民協議会や地域関連団体と連携して地区図書室を開設し「図書の貸出し」や「読み聞かせ」などのほか、八王子市図書館の蔵書のリクエスト受付及び貸出・返却業務を担いました。

このほか、地区図書室間の情報交換の場として中央図書館職員を交えた地区図書室連絡会や地区図書室運営部員を対象に中央図書館との共催による研修会を行いました。

また、八王子市中央図書館が行っている市民センター図書館化について協力し、平成 30 年 10 月 1 日に恩方市民センター図書館が開設されました。

④ コミュニティ用具の貸出し

地域住民協議会ほか各種団体にコミュニティ用具の貸出しを行い、市民センターまつりなどで活用されました。

(2) コミュニティ活動の支援

地域コミュニティの一層の活性化を図るため、住民協議会の運営経費や八王子まつりなどの開催経費の一部を助成しました。

① 住民協議会への助成事業

コミュニティづくりの中心的推進団体である 17 地域住民協議会の活動を支援するため、運営費のほか、広報紙の発行費用、地域住民のニーズに応じて開催される「地域ふれあい講座」の開催経費の一部をそれぞれ助成しました。

② まつりへの助成事業

「八王子まつり」をはじめ、「フラワーフェスティバル由木」や「踊れ西八夏まつり」、「八王子いちょう祭り」の開催経費の一部を助成したほか「八王子まつり」、「フラワーフェスティバル由木」の事務局を担当しました。



八王子まつり

(3) 地域ふれあいサロン

地域コミュニティの推進を図るため、市民センター内に一人でも気軽に立ち寄れる「地域ふれあいサロン」を元八王子・中野・由井・横山南 4 地区で実施しました。由井については、地域福祉推進拠点の開設にともない、社会福祉協議会と連携したサロンを新たに実施しました。

(4) コミュニティ施設の管理・運営

市民センター 18 館及び地区会館 14 館の指定管理者として、住民協議会や地元町会・自治会などと連携し、利用者満足度の向上が図れるよう、利用案内、施設貸出及び利用料徴収などの業務、施設や設備の保守管理業務を行いました。

利用者数 1,569,141 人 施設利用率 61.9% ※区分利用率

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 96.2% (大いに満足と満足の合計)

※市民センターの区分利用率は午前・午後 (A・B)・夜間 (A・B)

それぞれの利用区分数の合計を利用可能区分数で除した数

3. 市民のスポーツ活動の促進

(1) 地域との協働

地域と協働した公園づくりを進めるため上柚木小学校と連携し、陸上競技場フィールドへのティフトン苗の補植やサレジオ工業高等専門学校の協力のもと樹木プレートの制作・取り付けを行いました。

また、アドプト団体やボランティア団体と協働し安全できれいな公園づくりを行うとともに、就業体験の場の提供として、市内中学校計 7 校の職場体験や東京都立南大沢学園の実習生等の受け入れを行いました。

(2) 豊かな自然の保護と活用

上柚木公園の貴重な環境資源を活かすため、自然観賞教室や「公園に巣箱をかけよう」など 11 事業を実施したほか、環境資源事業として、高尾の森づくりの会の協力のもと里山の林床再生を実施しました。



「巣箱をかけよう」巣箱設置

(3) 市民の健康増進・子どもの体力向上

市民の健康増進・子どもの体力向上関連 17 事業（うち後援 2 事業、共催 2 事業）を実施しました。

特に市内唯一の小学生対象短距離競技大会「はちおうじダッシュ！」は、市内 66 校、市外近隣 22 校から 557 人の児童の参加を得て、学年男女別短距離走競技及び走り方を学ぶクリニックを実施し、児童のスポーツの普及、健全育成に努めました。

また、ラグビーワールドカップ 2019 や東京オリンピック、パラリンピック開催に向けての機運醸成を目的に「現役選手と体験、エンジョイ・ラグビー！」や「夢の陸上競技体験教室」を開催しました。



はちおうじダッシュ！

「ジョギング教室」は、コニカミノルタ陸上競技部の選手、コーチたちが講師を務め、115 名の市民ランナーがトップアスリートとの交流を楽しみました。

(4) 上柚木公園の管理・運営

運動施設を含む上柚木公園の指定管理者として、使用受付・貸出及び利用案内、使用料収納事務などの運営業務を行いました。また、施設・設備の保守管理・運動施設管理業務、安全安心の遊具管理など適正な公園施設管理業務を行いました。

運動施設利用人数 287,477 人 施設利用率 75.4%

利用者満足度調査結果 総合的な満足度 96.8% (大いに満足と満足の合計)

4. 学園都市づくりの促進

(1) 学園都市大学

八王子学園都市大学（いちよう塾）では、大学コンソーシアム八王子加盟の 25 大学等を含む講座提供機関 32 機関より提供された 307 講座を開講しました。

また、受講生の募集のため、講座案内 13,000 部及び市広報特集号 570,000 部を作成するとともに、学園都市センターをはじめとする市施設に講座ごとに作成したチラシを配布する等、市内外への周知に努めました。その結果、年間受講者数は、昨年より 856



いちよう塾 講座風景

人増の 7,217 人となりました。

(2) 大学コンソーシアム八王子

大学コンソーシアム八王子の運営を支援しました。



夏休み子どもいちょう塾

① 大学等連携事業

- 大学コンソーシアム八王子に加盟する 25 大学等と連携し、「夏休み子どもいちょう塾」を 2 日間開催しました。
- 全国の教職員を対象とした「FD・SDフォーラム」と「SD勉強会」を実施しました。
- 「大学理事長・学長と市長との懇談会 大学コンソーシアム八王子設立 10 周年記念シンポジウムシリーズⅠ～これからの 10 年、大学間・地域連携によって実現すべきこと～」、「同シリーズⅡ～大学コンソーシアム八王子における地域貢献の意義～」を開催しました。

② 情報発信事業

- 情報紙「大学コンソーシアム八王子情報 Vol. 14『八王子まるごと子どもキャンパス』、Vol. 15『まるごとキャンパス八王子』」を発行しました。
- 2018 新入生のための生活便利帳「シティインデックス八王子」を発行しました。
- SNS の活用を含めたウェブサイトにより情報を発信しました。



学生企画事業補助金成果報告会

③ 学生活動支援事業

- 八王子地域を舞台に地域貢献を目的として学生が企画・運営・実施する「学生企画事業」に補助金を交付するとともに成果報告会を開催しました。
- 「八王子地域合同学園祭第 13 回★学生天国★」を八王子学生委員会と共催しました。



学生発表会

④ 産学公連携事業

- 学生による様々な分野の研究成果を発表する「第 10 回大学コンソーシアム八王子学生発表会」、「八王子学生 CM コンテスト」を開催しました。
- 「八王子まつり山車曳き体験」や「八王子学生 CM コンテストワークショップ」、「IoT のことがよく分かる！春休み特別ワークショップ」を実施しました。

⑤ 外国人留学生支援事業

- 外国人留学生の考えや課題の整理を行うため、留学生の視点から考えた八王子の観光をテーマに「留学生座談会」、「留学生勉強会」を実施するとともに、今年度新たに「外国人留学生のための合同企業説明会」を八王子市と共催で開催しました。

⑥ 八王子市学園都市推進会議

- 「八王子地域合同学園祭ビッグウェスト学生フェスティバル 2018」を実施しました。
- 「八王子いちょう祭り・学生広場 八王子市学園都市づくりコーナー」や「第 95 回東京箱根間往復大学駅伝出場校合同壮行会」、「B・W・O 学生落語会」を実施しました。



学生 CM コンテスト

(3) 学園都市センターの管理・運営

学園都市センターの指定管理者として、利用者満足度向上のため、指定管理申請の提案に基づき、利用案内、施設貸出、利用料徴収などの業務及び施設や設備の保守管理業務などで適正な管理運営を行うとともに、施設利用の促進に努めました。

入場者数	162,921 人	施設利用率	90.0%
利用者満足度調査結果	総合的な満足度 99.4%(大いに満足と満足の合計)		

5. 法人管理

(1) 財団の管理・運営

予算決算・経理・人事管理等を適正に行い、円滑な運営を図りました。
また、評議員会を2回、理事会を4回、諮問委員会を2回開催しました。

(2) 収支安定の取り組み

外部助成金の獲得や利用料金収入の改善を図るとともに、営業活動により収入の確保に努めました。また、効率的な業務の執行により支出を抑制し収支の安定に取り組みました。一方で人件費などの固定経費が増加傾向にあり、その対策が課題です。

(3) サービス品質の向上

マネジメントの確実性を高めるとともに、お客様の声を改善につなげ、利用者目線に立った施設管理を行いました。また、情報セキュリティポリシーに基づき情報資産や情報機器を管理しました。

(4) 組織力強化

① 人事制度の改革

内部人材の登用による正規職員化を図り人材の確保に努めました。

② 人材の育成

研修計画に基づき各種研修を実施したほか、サービス介助士の習得や指定管理事業計画で提案した上級救命講習に参加させるなど、人材の育成を図りました。

③ 情報発信力の強化

芸術文化公演を始めとする各種催物などの情報や本財団が管理運営する施設の利用案内を情報紙、インターネットなどを通じて市民に発信しました。また、18 市民センターにおいては施設の空き情報を日々ホームページで提供しました。

(5) 第2次中期経営計画及び指定管理提案の目標達成

理事長、常務理事及び財団管理職で構成する「経営会議」を毎月開催し、各所管の課別経営計画の進捗状況や成果について情報を共有するとともに、具体的な改善策を検討・実施しました。

平成30年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款第9条第2号に規定する事業報告の附属明細書は作成していません。